



世界子ども水フォーラム フォローアップ in 東京

世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京 実行委員会

事務局：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL:03-5847-8307 FAX:03-5847-8314



CWWF-F in Tokyo

水があるから、生命がある。

水の交流 — 東京発世界へ。

世界の水問題について 考え、学び、発信する。

21世紀になって世界の水問題(水不足、水質汚染、洪水、渇水、国際紛争、環境問題等)はさらに危機的状況を深めつつあります。こうした世界の水問題について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として、「世界水フォーラム」が、第1回モロッコ(1997)、第2回オランダ(2000)、第3回日本(京都・滋賀・大阪:2003)で開催されました。「第3回世界水フォーラム」では主要な分科会のひとつとして「世界子ども水フォーラム」が開催され、水問題解決のための行動目標として「子ども水宣言」が発表されました。また、次回第4回世界水フォーラム(2006)はメキシコにて開催される予定です。

一方、日本国内においては、世界子ども水フォーラムを引き継ぎ、水に関する諸問題の周知・啓発と水に関心をもつ子どもたちのネットワークの構築を目的として、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」が2003年10月に広島で、2004年7月には宮城で開催されました。

そして、広島・宮城両大会に引き続き開催された「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京」は、次世代を担う中学校・高校の生徒を中心に、世界の水に関する諸問題や国内で抱える課題等について、自ら調べ、考え、勉強し、発信する機会を提供するとともに、参加者の交流及びネットワークの形成を通じて、オピニオンリーダーの育成、第2回世界子ども水フォーラム・メキシコへ派遣する候補者の選抜、並びに発表するテーマの選定を図ることを目的として開催されました。



渇水は世界共通の水問題



生活排水は水質汚染の大きな原因



水は生命の源



水の国・日本から発信する

CONTENTS

語り合った3日間	2
この出会いから始まる【開会式ほか】	4
わきあがる水への思い【分科会・発表会】	6
世界に向けて【開会式ほか】	22
フォーラムに参加して【大会を終えて】	26
参加者募集からメキシコ大会までの流れ・フォーラムを支えた人々	28

語り合った3日間

開催の主旨と目的

第2回世界子ども水フォーラム(メキシコ)への参加を視野に入れ、日本から世界に発信できるテーマ及び内容を話し合うことを目的としています。

〈開催の目的〉

- 1 日本から世界へ発信できることを子どもたち全員で話し合う。
- 2 第2回世界子ども水フォーラムで子どもたちが世界に発信できるテーマ及びその内容を検討する。
- 3 第2回世界子ども水フォーラムに派遣する候補者を選抜する。
- 4 世界子ども水フォーラム(京都)における「子ども水宣言」及びフォローアップin広島、宮城における経験及び成果を引き継ぐ。
- 5 フォローアップの開催によって、子どもたちの水に関するネットワークを構築する。
- 6 次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。



開会式での記念撮影(23日)

開催概要



全体発表会での個人名質疑(25日)

- 【大会名称】 世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京
- 【日程】 平成17年9月23日(金)～25日(日)
- 【会場】 東京都渋谷区青山 こどもの城(23-24日)
渋谷区代々木
オリンピック青少年センター(25日)
- 【主催】 世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京
実行委員会
- 【共催】 (財)河川環境管理財団
子どもの水辺サポートセンター
- 【後援】 文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、
NPO法人自然体験活動推進協議会、
NPO法人全国水環境交流会、
NPO法人日本水フォーラム、
川に学ぶ体験活動協議会

メキシコ派遣候補者発表(25日)

全体プログラム

9/23(金)

- 12:00 受付開始
- 13:00 開会式
 - 開会宣言(参加者代表)
 - 開会挨拶(群馬委員長)
 - 開催趣旨説明(ファシリテーター)
 - 記念撮影
- 13:30 オリエンテーション
 - スケジュール説明
 - 本大会の注意事項
- 14:00 アイスブレイク
 - ファシリテーター紹介
 - プロジェクトWET
 - 名刺交換会
- 15:30 分科会①
 - グループ分け
 - 各自、自己PR、レポート発表
- 17:30 チェックイン
 - 各自部屋へ移動
- 18:00 夕食
- 19:00 交流会
 - 交流会
- 21:30 入浴・就寝

9/24(土)

- 7:00 起床
- 7:30 朝食
- 8:45 分科会②
 - スケジュール確認
 - 発表準備
- 12:00 昼食
- 13:00 中間発表会
 - 各グループの発表
 - 質疑応答
 - 講評(高田副委員長)
- 15:00 ブレイクタイム
 - ブレイクタイム
- 16:00 分科会③
 - 各グループでのWS
- 18:00 夕食
- 19:00 分科会④
 - 各グループでのWS
 - 各グループ発表準備
- 21:30 入浴・就寝

9/25(日)

- 6:30 起床
- 7:30 朝食
- 8:15 こどもの城出発
 - 移動
- 9:15 オリンピック青少年センター着
- 9:30 全体発表会
 - 各グループの発表
 - 質疑応答
 - メキシコ派遣候補者投票
 - 講評(藤芳実行委員)
- 12:00 昼食
 - さよなら交流会
- 13:00 閉会式
 - メキシコ候補者発表
 - 激励(久保田実行委員)
 - 閉会宣言
- 14:00 解散

この出会いから始まる [開会式ほか]

開会式・オリエンテーション (23日)

平成17年9月23日、青山「こどもの城」。53人の参加者を代表して中学一年生3人による元気いっぱいの開会宣言で「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京」は幕を開けました。

岡島成行実行委員長の開会挨拶に続いて、実行委員の挨拶、※ファシリテーターによるフォーラム開催の目的についての説明がありました。

全体撮影に続いてのオリエンテーションでは、ファシリテーターから3日間のスケジュール・注意事項について説明が行われました。

※ファシリテーター:
Facilitateは「促す、容易にする」の意。Facilitatorは進行係のこと

アイスブレイク (23日)

参加者に打ち解けてもらうためにアイスブレイクが設けられました。ゲームや名刺交換などが行われて少しずつ気持ちが楽になった参加者たちは、分科会担当のファシリテーターやメンバーと顔合わせを行い、プロジェクトWET(水のオリンピック)に挑みます。

この後、本格的な意見交換の場、8つの分科会ごとにワークショップに入ります。

工夫を凝らした分科会 (23-24日)

分科会では、それぞれのテーマや参加者各自が持参した事前学習レポートなどをもとに「日本から世界に発信できること」について議論をしました。各分科会ではKJ法(ポストイットなどに書いた各自の意見をまとめる)を活用したり、車座で話し合ったり、分科会内を二つに分けて議論したりと、さまざまに工夫して話が進められました。

第1分科会	水による災害
第2~5分科会	水と自然環境
第6・7分科会	水と衛生
第8分科会	生活や産業に必要な水、水の歴史・文化



元気な開会宣言
(左から北田さん、平松君、山田君)



岡島成行実行委員長の開会挨拶



ファシリテーター長三浦さんによる
スケジュール説明



ファシリテーター大島さんによる
開催主旨説明



アイスブレイク・分科会員の顔合わせ



アイスブレイク・プロジェクトWET(水のオリンピック)

交流会 (23日)

23日、2時間に及ぶ分科会の後、夕食などはみんなで交流会が行われました。分科会対抗のゲームを楽しんだ後は、翌24日の休憩時間に行われるフリーウォーキングのコースについて話し合いをし、初日を終わりました。



ワークショップ(第4分科会)



ワークショップ(第2分科会)



交流会・すぐが/リラックスして



交流会・ゲーム「新巻の巻」でなごやかに



交流会・ゲームの盛り



交流会・ゲーム「動物の足」に歓声が上が



23日、翌日のフリーウォークのコースを相談

わきあがる水への思い

第1分科会 テーマ：水による災害



イラストを入れてわかりやすく(25日)



それぞれの意見をまとめる(23日)



発表に向けて真剣に(24日)



自己紹介からさまざまな話題へ(23日)



福岡県 高2
小川 久弥
おがわ ひさや



長崎県 高1
林田 果歩
はやしだ かな



福岡県 中3
的場 弘樹
あべ ひろき



京都府 中2
上村 真由佳
かみむら まゆか



宮崎県 中3
渡部 真理奈
わたべ まりな



鹿児島県 中3
橋口 満哉
はしぐち みづや



愛媛県 高1
藤原 直人
ふじはら なおと



ファシリテーター
小堀 進
こぼり すすむ



記録係
森 賢太
もりけんた

発表の概要

第1分科会では、レポートをもとにキーワードを挙げながら水害に対して自分たちでできることを話し合いました。

発表内容

水害について話し合ううちに、堤防やダムに頼りすぎず、自分たちでできることはする、事前に災害に対する心構えを持ち、対策を立てていくことが大切だという結論に至りました。そこで、水害に対する長期的な対策と災害後のボランティア対策の2つに絞って提案をしたいと思います。

「水害・洪水についての長期的な対策」。台風や集中豪雨によって起こる洪水は日本で最も多い災害です。洪水は堤防で防げますが、破堤することで被害が進行することもあり、より良い堤防を提案することが必要です。また、行政や住民と協力して※洪水ハザードマップをつくることも大切です。これは避難経路や危険地域をわかりやすく示したものです。

「水害・土砂崩れについての長期的な対策」。土砂崩れが起きると民家が埋まったり流されたりします。この土砂災害を防ぐ対策として緑のダムづくりがあります。植林や下草刈りなどの活動によって森を守り、山崩れを予防するのです。

また、役所などに地質調査を依頼して危険をあらかじめ知ることやハザードマップをつくること、日頃から近所の人とコミュニケーションをとっていざというとき助け合うことも大切です。災害時に約7割の人が近所の人に助けられているからです。

「災害後のボランティア活動」。復旧のための募金の呼びかけや高齢者・子どもの世話、後かたづけのためのボランティアの募集など、子どもでもできることをして大人の負担を減らします。

土地を貸してもらってゴミ置き場を確保する、避難場所を確保してテントを用意することなどについては、大人と協力して活動していきます。

このような提案を世界に向けて発信し、水害に対しては「ネバーギブアップ(あきらめないこと)」を心がけていきたいと思っています。

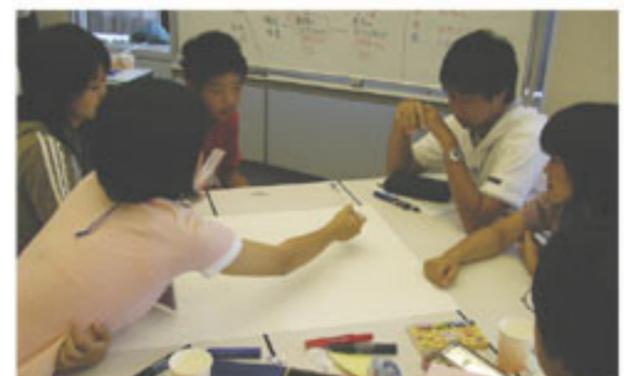
[分科会・発表会 23~25日]

質疑の要旨

「より良い堤防とはどのような堤防か」という質問に対して、浸透や越水に強いものをつくる必要性を説明しました。

「災害後にできることを具体的に」という質問に、「高齢者や子どもの世話など、できることはたくさんある」と重ねて説明しました。

Note 洪水ハザードマップ
浸水予想地域や避難場所、避難経路、避難の心得を記したもので、平成16年3月現在、洪水ハザードマップを作成した自治体は301。土砂災害でもハザードマップは有用である。



話し合いの前に準備中(24日)

ファシリテーターコメント

子どもたちのしっかりした発表に驚いた。また自分が知らないところで何度も練習をしたのか全員がベース配分を守り定刻で発表を終えることができた。世界に向けた発表としてのレベルアップを望みたい。

発表者コメント

- ・伝えたいことを率直かつわかりやすく言えた
- ・自分の経験に基づいた発表ができた
- ・少し準備不足だった

第2分科会 テーマ：水と自然環境①



クイズ形式で水問題を考える(25日)



みんなに見えるように(25日)



自己紹介に挑戦(23日)



ファシリテーター西林さんに合わせて(23日)



福島県 高1
佐藤 大地
さとう だいち



栃木県 高2
福久 裕成
ふくひさ ゆうせい



大阪府 中2
林 佳奈江
はやし かなえ



石川県 高1
谷口 央
たにぐち あり



静岡県 高1
市川 美智華
いちがわ みちか



北海道 高2
福士 美春
ふじ みはる



宮城県 中2
佐藤 楓
さとう ふう



ファシリテーター
西林 ゆうか
にしむら ゆうか



記録係
西出 直哉
にしで なおや

発表の概要

第2分科会では、クイズ形式でわかりやすく水と自然環境を守るために大切なことを伝えました。

発表内容

- Q1 世界に誇れる日本の水の現状とは。
A. 組織がある B. 浄化技術が発達している
C. 水が豊かである D. 洪水が起きにくい
正解はDの「洪水が起きにくい」です。
- Q2 第2分科会の人々が飲まなかったものは。
A. コーラ B. 爽健美茶
C. 生茶 D. 工業排水
正解は当然Dの「排水」です。
- Q3 第2分科会の人々が水に関心を持ったきっかけは。
A. ガールスカウト B. 地域の生協
C. 学校関係 D. フジテレビ
正解はDの「フジテレビガールスカウト(青少年団体)」です。
- Q4 川の浄化に役立つ有用微生物群の略称は。
A. TMエロリユーション B. ET
C. CM D. EM
正解はDのEMです。
- Q5 これから水環境を考える上で私たちがしなければならないことは。
A. 計画思考 B. 振り返る
C. 実践する D. 伝える
正解は全てです。

環境を守るために必要なことはPDCAです。世界のさまざまな場所で体験し、具体的な改善策を考え、世界の人々と話し合い、政治情勢に左右されず伝えていきたいと思っています。

質疑の要旨

会場からPDCAについて具体的な説明が求められました。これに対して、「Plan Do Check Actの略で、計画・実行して改善点を見だし、次の行動につなげること」との説明がありました。

Note EM
Effective Microorganismsの略称。自然界から採集し、抽出、培養した有用微生物群。EMに含まれる主な微生物に乳酸菌群、酵母菌群、光合成細菌群、発酵系の糸状菌群、グラム陽性の放線菌群がある。



車座になって「伝え方」を考える(24日)

ファシリテーターコメント

時間を大幅にオーバーしてしまって皆悔しかった様子。これからは場慣れしてこの悔しさを越えていってほしいと思う。

発表者コメント

- ・聞いている人たちが楽しめるように工夫した
- ・時間配分ができなかった
- ・伝えたいことをあまり伝えられなかった

第3分科会 テーマ：水と自然環境②



「交流」と「共育」と「参加」を(25日)



松本君(左)と平松君(右)の対談(23日)



心やすらぐフリーワーク(24日)



アドバイザーとの会話が弾む(23日)



愛知県 中1
平松 裕規
ひらまつ ひろ規



山口県 高2
松本 和樹
まつもと とけず



山口県 高1
岡 志桜里
おかしほり



北海道 高3
小野寺 希
おののら のぞみ



神奈川県 高3
佐野 真吾
さのしんご



福岡県 高3
坂本 貴啓
さかもと たかあき



宮城県 中2
飯塚 航
いひづか かな



宮城県 中2
飯塚 航
いひづか かな



ファシリテーター
高田 拓朗
たかた たくろう



記録係
三原 重央
みやはら しゅうお

発表の概要

地域から世界へ発信というテーマで、交流・共育・参加というキーワードを基に水問題への取り組みを広げていく方法について考えました。

発表内容

最初にフォーラムに参加するきっかけを挙げて分類してみたところ、「交流」、「共育(共に育む)」、「参加」という3つの言葉が浮かび上がってきました。この言葉につながる、メンバーの体験を挙げてみます。

侍従川でのイベントにスタッフとして参加したことがあります。小学生と交流して「自然の大切さや自然を学ぶ楽しさを伝えたい。将来、自然を守る仲間になってほしい」という思いがあったからです。

北海道の自分の高校での活動を外国の人たち(ネパール・カンボジア)が視察したことがあります。言葉の壁を越えて活動を理解してくれて、貴重な交流ができました。

遠賀川での中・高校生の情報サークル・YNHCというネットワークをつくって活動しています。石が好きだったり、生物が好きだったりする人が集まって全国に活動の輪を広げています。

これら3つの体験全てに「交流」、「共育」、「参加」という言葉が生きています。

「交流」で中高生ができることは、ネットワークをつくること、輪を広げること、情報交換すること、活動に巻き込むことなどが挙げられます。

「共育」は、地域の中でリーダーとして子どもや大人に伝えることで、ともに自然への意識や活動への思いを育むという意味です。中高生は「先生」にはなれませんが、アイデアを出すことや人に伝えることはできます。

「参加」は、機会や楽しみ、遊んで学ぶこと、出会いなどに通じる言葉です。「参加」によって生まれるものがあります。例えば、水フォーラムに参加することで新しい発見ができます。

人がつながるきっかけはさまざまです。方言大会や北海道でのミニ河川での活動、侍従川でのイカダ下りや鶴飼いなどは良い機会と出会いをくれます。キーワードは「お互いを知る」です。

質疑の要旨

活動を視察した外国の人はどんな点に注目したかという質問に対して、ネパールなどの人が自国では水問題や自然環境に関する教育ができていないこと、意識が低く生活優先になってしまうなど実情を語ってくれたのが印象的だったと回答していました。



人がつながるために大切な「きっかけ」を考える(24日)

ファシリテーターコメント

ポスターを見ながら発表する姿が目立った。前を向いて発表するべき。また、急いでマイクを渡していたので早口で聞きづらくなっていた。

発表者コメント

- ・素朴な意見が聞けて良い刺激になった
- ・意識の高さに驚き、同じ志を持った人が全国にいるということに感動した
- ・話し合った内容よりも発表は簡略化しなければならなかった

第4分科会 テーマ：水と自然環境③



自然に触れると視野が広がる(25日)



「言葉ってあたたかい」(23日)



さまざまなテーマを持ち寄る(23日)



自然を好きだと伝えたい(23日)



福井県 中2
大西 健太
おにしけんた



宮城県 中3
飛弾 ゆり愛
ひだゆりあ



神奈川県 高1
目黒 謙一
めくろけんいち



宮城県 高1
手塚 優馬
てづかゆうま



北海道 高3
佐藤 裕基
さとうゆうき



青森県 高3
浅井 真理
あさいまり



広島県 中3
山下 優美
やましたゆうみ



ファシリテーター
寺内 雅晃
てらうちみやび



記録係
池田 幸子
いけださちこ

発表の概要

それぞれのメンバーの地元にある愛着のある環境について調べ、自分でできることから始めて水環境保全につなげようという発表でした。

発表内容

自然に関心のない人に関心を持ってもらうためには、自分が自然に感動して、自然を好きだという気持ちを伝えることが大切です。そのために自分でできることを挙げます。

「水環境を守るために自分でできることを行って周りの人を巻き込む」

「学校や地域など多くの人に協力してもらって水環境を守る」

「自然に素直な気持ちで接する」

「川の原点である森を守る」

「ホタルを守るために水をきれいにする」

「メダカが生きられるような川にするため洗剤や油を川に捨てない」

「太平洋でイルカを見た感動やクジラと泳いだ感動を周りに伝える」

「部活動やNPO活動を通じて湿地や川を守る」
こんな行動への思いをそれぞれ漢字一文字に託しました。

「協」、協力の協、力がたくさん集まるから。
「新」、自然はいつも新しいから。
「動」、話し合うだけでなく動くことが大切。
「知」、いろいろなことを知ったから。
「感」、感動が大事だから。
「海」、海が好きだから。
「触」、自然と触れ合うことの大切さを込めて。
「直」、若い人と直接知り合えたから。
「今」、今を未来につなげることが大切だから。
「寺」…ぼくは寺内だから(笑)。

人間優先ではなく自然と共生できる環境づくりを進めていくことが大切だと思いました。

質疑の要旨

発表に対して、ニックネームが「社長」の佐藤君に質問が集まりました。

佐藤君は、所属するNPO法人の具体的な活動について、カラタニイトンボを象徴的な存在として湿地を守っていることを説明しました。

また、自然とふれあうきっかけについて聞かれ、高校の生物部に入り、周辺調査をしたところ、川の存在と川の周囲に生息するムカシトンボなど多様な生物の存在を知ったことを挙げました。



好きな色、好きな文字に託して(24日)

ファシリテーターコメント

「何が残ったのか」ということが大切で、抽象的スローガンで終わらずにすんでよかったが、より具体的な提案に届かなかった感がある。

発表者コメント

- ・他の分科会にない発表ができた
- ・ぎりぎりまで発表の準備をし、協力できた分それを発揮して発表できた
- ・時間的に厳しかった

第5分科会 テーマ：水と自然環境④



メンバーが「アイガモ」を熱演(25日)



村中さんの「アイガモ」と山田・小出博君のイネ(25日)



絵かく書き込心(24日)



「こんなふうにも考えられるかも…」増田さんの思いは手ぶりに表れて(23日)



愛知県 中1
山田 昂大
やまだこうたけ



北海道 高3
小出 和彰
こいでかずあき



宮城県 高1
三浦 和之
みつらかずゆき



熊本県 中3
村中 志帆
むらなかしほ



長野県 高3
織村 啓子
おりむらけいこ



兵庫県 高3
藤本 太郎
ふじもとたろう



ファシリテーター
野口 倫子
のぐちるとこ



記録係
増田 淑乃
ますだしゆの

発表の概要

第5分科会では、身近な生活から世界に向けて何が発信できるかを考えて、農業による水質汚染への対策を取り上げました。

発表内容

日本と発展途上国との共通点は多くはありませんが、農業は生活の一番身近なところにあることから、テーマとして取り上げました。

現在、日本では農業による水質汚染が問題になっています。稲を育てるために使った農薬が水に溶けて人間や多くの生物に影響を与えています。それは生態系の破壊にもつながります。

こうした破壊をくい止めるために、さまざまな取り組みが行われていますが、最近注目されているのが有機農法や無農薬栽培です。

その有機農法の一つに「アイガモ水稲同時作」があります。この農法は愛知県や長野県で実際に行われ、テレビなどでも取り上げられています。

春、幼いアイガモを田圃に放しておく、害虫や雑草を食べながら育つうちに、その糞が肥料になるので、農薬や化学肥料を使わなくて済みます。こうしてホタルなどが棲める環境が戻ってきます。稲も順調に育ち、最後にアイガモは食料になるという「一石三鳥」の農法です。アイガモの代わりにアヒルでもできますし、水稲以外でも可能です。

この農法は、稲作を行う東南アジアの国々への技術援助、経済援助として効果的ですし、新たな交流のきっかけとなります。実際に日本の農業系の学校でアジアの学校と交流している例もあります。また、稲作が盛んではない国、水問題の起きていない国にも広めて交流を深めることができます。

メキシコで、こうした国々と情報を交換し、新たな情報が日本にも伝わってくる。そうした仕組みができればと思います。

質疑の要旨

「イノシシが出る地域ではアイガモを守るために電気柵を設置するなどコストがかかるが…」

「アイガモの代わりに鯉が使えるようですが…」

「実際にアイガモ農法をしてみて効果を実感し、アイガモに愛着がわいてきました。食料にするのではなく他の目的に使えませんか」といった質問が会場から寄せられ、アイガモ農法が良く知られていることがわかりました。これに対してコスト面などの詳細には答えられなかったものの、鯉を使っている例があること、成鳥の一部を繁殖に使えることなど、具体的に活用法を説明していました。



水を守るためには…(24日)

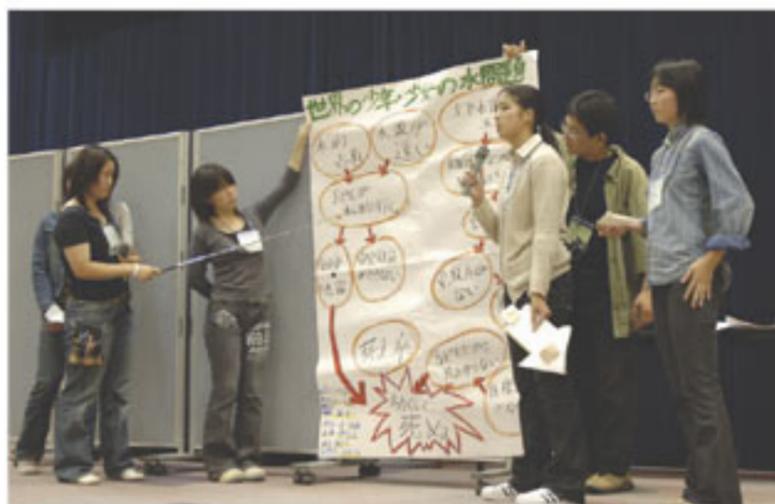
ファシリテーターコメント

6人が結束していることを嬉しく思った。全体発表では明確にまとまった意見が出せたとと思う。

発表者コメント

- ・ 専門的な言葉も中学1年生でもわかるように工夫して発表できた
- ・ みんなが真剣に話を聞いてくれてうれしかった
- ・ もっと時間を気にしながら準備をし、練習時間を増やせばよかった

第6分科会 テーマ：水と衛生①



途上国では水が原因で人が亡くなることも—(25日)



日本にも多様な水問題が—(25日)



一人ひとりの思いを引き出す増永さん(23日)



話し込み、書き入る(左から中尾さん、北川さん、野池さん)



北海道 高2
南 玲生
なん りょうせい



神奈川県 高2
灰塚 果苗
はいづか かなえ



千葉県 高1
野池 芽衣
のえ めい



大阪府 高1
北川 あゆ
きたがわ あゆ



徳島県 高2
中尾 浩子
なかとみ ひろこ



宮崎県 中1
松田 鈴果
まつだ すずか



ファシリテーター
増永 文子
ますなが ふみこ



記録係
植松 智子
うえまつ ともこ

発表の概要

日本にも地域によって多様な水問題や水環境の格差があることを挙げ、そこから世界の水問題へとつなげました。

発表内容

千葉県には真岡川という、汚れて悪臭を放つ川があります。これは、地域に仮設浄水槽が多く、トイレの水は処理するものの、生活排水がそのまま川に流れ込んでいるからです。この状態を解決するためには、生活排水を処理できる合併浄化槽の普及が必要です。川だけでなく上水道の水源の地下水が農薬で汚染されている例もあります。日本にもこのような水環境の格差や多様な問題があるのです。そこで、日本国内で日常的なことから水環境に貢献できる一例を挙げてみたいと思います。

汚れた川を清掃していると仲間ができ、川がきれいになり、川に続く海もきれいになります。海は世界につながっているので、日頃の活動の場が日本から世界の水問題を考える場になります。

次に世界の少年少女の水問題に眼を向けます。途上国では一部の権力を持った人や富裕層が水を占有していて、子どもたちが遠くまで水汲みに行かなくてはならない状態になっています。

遠くまで水汲みに行くと学校に行けません。男子だけが学校に行って、女の子が水汲みに行くという場合もあります。また、紛争地帯では水汲みに行くこと自体が危険です。

水汲みのために学校へ行けないと教育ができません。教育といっても数学などの教育ではありません。生きていくための最低限の知恵や安全教育ができないのです。すると、知らずに細菌が繁殖した水を飲んでしまうという事態が起きてきます。

また、上下水道が整備されていないために汚染された水を飲まざるを得ず、乳幼児の免疫力が低下し、その結果、デング熱などの病気に勝てず亡くなる場合も大変多くなっています。

こうした問題を、ネットワークを広げながら、考えていきたいと思っています。

質疑の要旨

バングラディッシュでの地下水汚染を耳にした参加者から地下水の処理方法を聞かれ、処理が行き届かない現状について説明をしました。

また、「川の清掃は面倒」と言う人への対応を尋ねられて、「川がきれいになることを実感・体験してもらうことが大切」と活動経験をもとに説明していました。



水問題の多様さはカードの数に現れる(24日)

ファシリテーターコメント

メンバーの中で役割を分担して自分たちの話し合いをきちんとまとめられていた。自分の経験や身近な水環境など子どもたちの目線がおもしろかった。

発表者コメント

- ・ 分担を決めて発表ができた
- ・ 伝えたいことの全てを発表できなかったのが残念
- ・ 世界に目を向けすぎて日本について考えていない現状にとまどった

第7分科会 テーマ：水と衛生②



水環境に技術で対応してきた日本 (25日)



水をめぐる習慣も価値観も 外国と日本では違う (24日)



個人の意識の持ち方は大切 (24日)



村松さんと橋本君。兵庫県から来て (23日)



宮城県 高1
工藤 美樹
くどう みき



兵庫県 高1
橋本 和昌
はしもと かずまさ



愛知県 高3
有木 汐奈
ありき しほな



京都府 中2
三谷 英里
みや えり



静岡県 高2
遠藤 惟
えんどう けんじ



熊本県 高1
村上 駿平
むらかみ しゅんぺい



ファシリテーター
大鳥 由香子
おほとり ゆかこ



記録係
村松 まゆみ
むらかみ まゆみ

発表の概要

第7分科会では、日本の水環境の現状と課題を取り上げ、さらにそれを途上国に伝えることの意義を挙げました。

発表内容

日本の昔と今を比べてみます。昔は下水道の未整備による衛生状態の悪化や公害による水の汚染、水不足などの課題がありましたが、今は下水道で生活排水を処理し、排出規制や有害物質の処理方法の開発によって公害を解決するほか、ダムや用水路を造って水不足に対応できるようになりました。昔の水課題の多くが技術で解決できたのです。また、農業や合成洗剤による水質汚染などの課題に対しても、アイガモ農法などの有機農法や石鹸の活用などの対処法があります。

ただ、日本人の個人の意識は変えていくことが大切です。たとえば、きれいな湖にゴミをポイ捨てするのではなく、ゴミ箱にきちんと捨てることで、きれいな水環境は生まれてきます。

次に、世界の水環境を見てみます。水が関係した感染症患者の割合を見てみると、そのほとんどを途上国が占めていることがわかります。また、水が原因で8秒に1人が亡くなり、汚水が原因で病気になる率が80%を超えています。また、地下水の過剰汲み上げで砒素汚染が増えています。

このような途上国の人々に、日本の直面した課題とともに技術や対策を伝えることが大切だと思います。たとえば、日本ではコレラをさまざまな対策により克服しているので、その技術・対策を話すことが先進国である日本の務めではないかと思います。

同時に、アジアや中南米の水事情や異文化を学べば相手を理解できアドバイスもしやすくなります。メキシコ大会を控えて、以上のようなことを「日本の子ども」として発信していくことが大切だと思います。

質疑の要旨

「下水道の整備状況」について「完全ではないが、前と比べるとかなり整備が進んでいる」状況を伝えました。「合成洗剤を石けんに完全移行したら問題が起こらないか」との質問には、「詳しいデータは挙げられないが、石鹸は水に対する負荷が少ないことに注目した」と回答。「アイガモ農法だと米の収穫量が減るのではないか」との質問に、「アイガモ農法は、安全性に重点を置いたもので、収穫量が減っても環境負荷を減らすという意味で意義がある」と回答していました。



意見を聞くことの大切さ (24日)

ファシリテーターコメント

参加者が全体に落ち着いて発表に臨めた。他グループよりは多少一貫性に欠ける提案になったかもしれないが、大枠という意味では十分だったと感じた。

発表者コメント

- ・ 特大ポスターを作り見やすいように工夫した
- ・ 時間の無い中でまとめることができた
- ・ メキシコに目を向けすぎかなと感じた

第8分科会 テーマ：生活や産業に必要な水、水の歴史・文化



7つの節水宣言 (25日)



ホワイトボードに書き込みをする中村さん (23日)



発表に向けてポイントをチェックする矢野さん (24日)



水に村する先人の知恵を知る (25日)



栃木県 中2
桑川 結慧
くさか けい



鳥取県 高2
和田 ちよ
わだ ちよ



滋賀県 高1
高木 千明
たかぎ ちあき



広島県 高2
野崎 玲未
のざき れいみ



宮城県 高2
甲斐 由貴
かい ゆき



大阪府 高2
矢野 さつき
やの さつき



宮城県 中3
中村 翔也
なかむら しょうや



ファシリテーター
宮崎 由美子
みやざき ゆみこ



記録係
長澤 美未
ながさわ みみ

発表の概要

第8分科会では、日本と世界の文化や水環境を比較しながら水の大切さを訴えました。

発表内容

途上国では、上下水道が整備されず、水が原因で病気になったり、亡くなったりする人が大勢います。水を汲みにいかなければならない人が大勢いますし、風呂にも自由に入れません。洪水や濁水などの時、水をコントロールできないので、作物を安定して生産できず、生活は安定しません。

日本を始めとする先進国では水が原因で亡くなる人はいません。ダムや堤防を整備して洪水をコントロールする一方で、水道整備により水を簡単に手にいれることができます。それで、段々水の無駄遣いも多くなりました。

宮城県延岡市を流れる五ヶ瀬川には※豊堤という堤防があります。昭和初期にできたもので、畳を使って洪水が堤防を越すのを防ぐ仕組みです。洪水が収まれば、畳は捨てます。捨てても土に還るので安心です。

豊堤近くには水神様がたくさん祀られています。これは、住民の水への恐れと感謝の気持ちを表したものです。昔の人はこうして洪水に備え、水の無駄遣いも戒めてきたのです。

こうした水の文化をもう一度見直し、水を大切にするために私たちも「7つの節水宣言」を挙げてみました。

- 「トイレを使うとき2度流さない」
- 「水を使い回す」
- 「残り湯を使う」
- 「米のとぎ汁は植物に」
- 「アクリルタワシを使おう」
- 「コップ1杯で歯磨きをしましょう」
- 「飲まない水は、初めから入れない」

メキシコでは、これまで挙げてきた日本の文化、先人の知恵を踏まえ、水の大切さを発信したいと思います。

質疑の要旨

発表に対して「トイレの二度流しをしないという節水宣言の一つを聞いて音姫(水が流れる音がする装置)を思い出しました」との感想が寄せられました。また、豊堤のメリットについての質問があり、豊堤は畳という身近にある、安価な材料でできること、洪水が終われば取り外せるので川の景色を遮らない点などを挙げて先人の知恵が優れていることを説明しました。

Note

豊堤

昭和初期につくられた、コンクリート製の枠、畳を差し込めるようになっており200mほどにわたっている。洪水の被害を防ぐ住民の知恵である。こうした歴史を踏まえて、国土交通省延岡河川国道事務所によって付近に記念碑が建てられている。



中間発表 (24日)

ファシリテーターコメント

自分の口頭発表が終わったら模造紙を持ってあげるといふことを助言するのを忘れたために発表がスムーズにいかなかったが、みな笑顔で終わられて良かった。

発表者コメント

- ・制限時間内のできる限り多くのことを伝えることができた
- ・具体的に発表できた
- ・練習時間が足りなかった

世界に向けて [閉会式ほか]

中間発表会・講評(24日)

世界の水を縦横で見る

実行委員会副委員長 嘉田 由紀子

東西という横の軸で世界を比べると、西のアフリカやインド、昔のヨーロッパなどではトイレというものはありませんでした。フランスのベルサイユ宮殿にトイレがないのは有名な話です。これに対して東の中国や日本では古くからトイレがありました。

日本になぜ昔からトイレがあったかという、一つには人糞が肥料になることを知っていたこと、もう一つ

は「生水が飲みたかった」ということです。それで、集落では飲み水を取る「上の川」と、おしめを洗っていい「下の川」を決めて、水の使い分けをしていました。細菌についての知識があったわけではなく、そういう文化だったからです。



嘉田由紀子実行委員会副委員長

文化といえば、アフリカにトイレがないのは、特定の場所・トイレで排泄をすると、個人が特定され、排泄物に呪いがかかるという謂われがあるからだそうです。これも文化です。

これを南北という軸で見ます。世界では北半球が先進国、南半球が途上国という大まかな分け方がされています。その先進国がアフリカにトイレをつくるための援助をしてもなかなか根付きません。これは、資金が乏しいことだけでなく、文化の問題も大きいということが言えそうです。

3年前、滋賀のフォーラムでアフリカの人々に圧倒されて日本として発信ができなかったといいますが、今度は文化や水環境を学んで、フレームづくりをしてから国際舞台に臨んでほしいと思います。

全体発表会・講評(25日)

社会に、世界の水問題に、役立つ発信を

実行委員・藤芳 素生

平成16年、ストックホルムの水大賞で、宮古島農林高校がグランプリを受賞しました。これをきっかけに、水大賞の選考基準に「社会性」を置くことになりました。高校生たちが、島の農業による水の汚染を自らの問題としてとらえ、有機農業を実践したことが本当に社会に役立つものであり、「子どもと対等に水問題を考えよう」という思いが選考委員の間にわきあがったからです。

ところで、今回のフォーラムの発表の中にも面白い質問がありました。「きれいな水とはどういうものですか」というものです。東京でも大阪でも活性炭などを使って川の水を高度処理しています。それは「きれいな水」ですが、浄化さえすれば川の水はどうでもいいというわけではありません。そのことを考えると、いつも川や湖で活動して、親しみながら水について「警告」を発していくことは日本の社会だけでなく、世界の水問題にも役立つことだと思います。

今回、さまざまな地域から東京に来た53人がさまざまなテーマを持ち寄って考え、話し合うことで、社会に役立つような成果を上げたと思います。メキシコ大会でも、さまざまな地域の人々が、さまざまな課題を持って集まります。そこで、フォーラムでの経験を踏まえて、日本人として、世界の水問題に役立つことを、諸外国の人の立場に立って、わかりやすく発信してほしいと思います。



藤芳素生実行委員による講評

全体発表会と投票(25日)

9月25日、代々木の青少年オリンピックセンターに会場を移して全体発表会が行われました。熱のこもった発表と全体講評に続いて投票が行われました。自薦・他薦を含む2名推薦の権利を持つ参加者のほか、選考委員、ファシリテーター、記録係、アドバイザーが参加者の自己紹介シートなどを参考にしながら投票しました。選ばれたメンバーはメキシコ大会派遣候補者として勉強会に参加したあと、さらに5名程度に絞られます。

さよなら交流会(25日)

立食形式の昼食を取りながらおしゃべりしたり、ゲームをしたり、写真をプリントできる記念パッチを作ったり…。少し前に会ったばかりということが信じられないほど、打ち解けた参加者たちの声のひとつになって会場を賑わしていました。

閉会式(メキシコ派遣候補者発表と激励 25日)

閉会式を迎え、いよいよメキシコ派遣候補者の発表です。久保田勝実行委員がソンプレロをかぶって登場し会場をわかめます。軽快な「ラバンバ」のリズムに乗せて名を呼ばれた候補者17名が次々に壇上へ。ソンプレロを久保田委員からかぶせてもらいます。こうして全員が揃ったところで久保田委員から激励の言葉がありました。

「23日、24日の2日間は兵庫県豊岡盆地というところでコウノトリの放鳥(自然にかえすこと)に立ち会っていました。餌のドジョウが田圃の農薬のせいでいなくなり、コウノトリは絶滅の危機に瀕していました。そこで豊岡盆地では共生のため農薬を使わない農法を行ってきました。それが、今回放鳥までこぎつけてうれしかったです。今回17名が選ばれたわけですが、今回選ばれなかった人は、また地元に戻って皆さんの活動を続けてください。選ばれた人はさらに勉強して諸外国の人に負けぬように発表してください」

水や自然、参加者への温かな気持ちが込められた言葉でした。



候補者のプロフィールを見入る

投票風景



さよなら交流会を前に

昼食を取りながら話を続ける



候補者にソンプレロを



メキシコ派遣候補者が壇上に

閉会式(候補者の決意)

激励の言葉を受けてメキシコ派遣候補者17名はひとりひとり抱負を述べました。

「滋賀、京都、大阪に続いて今回と、体験を活かしたいと思います。みんなの分も頑張ります」

「今までやってきたネットワークづくりを活かして世界に発信していけたらと思います」

「自分の意見をはっきり言えるように心がけて頑張ります」

「世界を知るために来ました。メキシコに行って話ができるようにこれから頑張りたいと思います」

「自分が選ばれると思っていなかったのだから頑張ります」

「おかげさまで候補者の中に入ることができました。これからも精進していきたいと思っています」

「このまま頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします」

「今まで参加してきたことを活かして勉強会にもいけたらと思います」

「今までフォローアップに参加してきたことをもとに意見をまとめていきたいと思っています」

「この3日間で、普段の生活では学べないことが学べたと思います。これを活かせるように勉強会などに臨みたいと思います」



ひとりひとりが抱負を



日本から世界へ発信

「地域から世界へ、を実現したいと思います」

「前回の世界大会で、はっきり自分の意見が言えなかったのだから、メキシコでは自分の意見をはっきり言えるようにしたいと思っています」

「選んでいただいたので最後まで頑張ります」

「これまでの自分の経験を活かしてしっかりしていきたいです」

「経験を活かして世界に日本のことをいっぱい伝えたいと思います」

「地域から、そして日本から、高校生だからできることを伝えていきたいと思っています」

「相手のことを理解しながらも自分の意見をはっきり言い、ネットワークについても考えていきたいと思っています」



候補者から一言

候補者一覧
 小野寺 希
 佐藤 裕基
 南部 玲生
 禧久 裕成
 野地 芽衣
 灰塚 果苗
 遠藤 惟
 山田 晃大
 三谷 英里
 上村 真由佳
 北川 あゆ
 矢野 さつき
 松本 和樹
 坂本 貴啓
 中尾 浩子
 林田 果歩
 村中 志帆

閉会式(何よりの言葉)

決意発表の後に全体写真の撮影が行われました。選ばれた人も、選ばれなかった人も元気いっぱい撮影に臨んでいました。

そして、最後にファシリテーターや記録係が舞台上がって参加者に声をかけました。

「来る前とちがって、みんな一回り大きくなったような気がします。そんなみんなに私も元気をもらいました」

「ここでできた友だちを大切に」

「川、なんやコワイな、言う人に川のすばらしさを教えてあげて…」

「今回は前よりレベルが上がったと思います。しんどかった分、成長していると考えていいですよ」

なかには「メキシコ行きの帽子をかぶって喜んでみんなを見たら自分もうれしかった…」と感極まって言葉を詰まらせる人も…。

3日間の、それぞれの成果を持って各地域へ帰っていく参加者への何よりの言葉でした。



3日間の頑張りを讃え合う



ファシリテーターの言葉に応える



やり終えた感謝にスタッフも



ファシリテーター全員から挨拶を(閉会式)

フォーラムに参加して [大会を終えて]

[子ども達のふり返りレポートから]

仲間と話し合えた3日間

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

川に関心を持ってもらうために川で遊ぶような取り組みをしたり、お年寄りに歴史や昔の水害のこと、川で遊んだ経験などについて聞いたりしたいです。

近所の川をもう一度子どもの遊べるような、簡単にゴミを捨てたりできないような、きれいな川にしたいので、そのために何ができるかを考えたいです。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

ほかの地域の中高生の仲間とじっくり話しあえた3日間。貴重な体験でした。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

ファシリテーターのおかげで分科会が良くまとまりましたし、記録係の方が場を盛り上げてくれたので、みんな仲良くなれました。

水への関心の高さ

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

ほとくの学校は河川浄化を大きなテーマとしています。自分たちは浄化をして川がきれいになったと思っていても、周りの人々から見たらどうなのか…。こういったことをふまえて、川に関する全国的なつながりを持たせたいと思います。まず今回のフォーラム仲間とつながりを持つ必要がありますね。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

ひとりひとりの水への関心の高さには圧倒されました。話す内容も濃く、不足がありませんでした。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

なかなかうまく伝えられないこともあって、発表時間が足りませんでした。

水辺の大切さをホームページで

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

年下の人にうまく伝えていくこと、例えば親しみやすい催しなどを考えて実行したいです。自分自身も年上の人話を聞いて学習していかねば、と思います。そして、今続けている子どもエコクラブのホームページを通して広く水辺の大切さを伝えていけたらと思います。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

もう少しみんなの活動の話を持ち下げて聞きたいと思いました。自分自身としては以前に比べて積極的になることができました。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

次の会場は町でなく、地方をお願いします。水源探検のようなこともしたいので。

学校でも呼びかけを

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

地域の人に川に親んでもらいたいので、清掃活動を行っている団体に参加してネットワークを広げたり、学校で友だちに参加を呼びかけて協力してもらったりしたいと思います。また、YNHC(青少年博物学会)のような団体を通して積極的に情報交換もしていくべきだと思っています。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

分科会で競い合ったりして新しい経験を得られ、うれしかったです。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

ファシリテーターを始め、記録係、実行委員の方々が親切だったので、分科会などで助かりました。

大切なのは続けること

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

今、自分が取り組んでいる水質調査を続けることが一番大切だと考えます。そして、自分の活動について発信したいと思います。また、日本には水や自然環境に関する組織が多いと思うので、今までの自分の経験を活かしながら、そういうところにも参加できたらいいなと思います。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

3日間はあっという間に過ぎてしまいました。もっと、みんなと交流したかったです。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

風邪をひいてしまいましたが、事務局の方のおかげで頑張ることができました。それが嬉しかったし、助かりました。



閉会式での記念撮影(25日)

■このフォーラムで何が得られましたか?

交流・ネットワーク	19人
情報・知識	18人
新しい視点	9人
他の参加者の活動状況	4人
みんなで一つのことをする	3人
その他	16人

続けてほしい「水フォーラム」

■自分の活動を広げるためにどんなことに取り組みたいですか。

団体に所属していないので、水について1人で調べることが多かったのですが、活動が限られてしまうので学校を通じて活動を広げたいと思います。私たちの年齢で水について真剣に考えている人は少ないと思います。そういう人たちに水を知ってもらい、大切さをわかってもらうことから始めたいと思います。

■3日間を振り返っての感想や言いたいことを教えてください。

自分が考えたことを、たくさん周りの人に伝えることができ、友だちもいっぱい作れたのでうれしいです。

■フォーラムの運営などについての感想や意見を教えてください。

より多くの人に「水フォーラム」のことを知ってほしいので、続けてほしいと思います。

参加者募集からメキシコ大会までの流れ

平成17年 5月31日	第1回実行委員会：東京大会開催概要と参加者(中学高校生)募集要項を決定
6月 6日～ 7月 6日	参加者募集：全国から103名の中学高校生が応募 「水問題で日本の子ども達が世界に貢献できること」等のテーマで作文を提出
6月28日～ 7月20日	ファシリテーター募集：全国から22名の大学生等が応募 「自らのファシリテーションの経験や考え方」について作文を提出
7月13日	第2回実行委員会：応募作文審査により53名の参加者を決定
8月11日	第3回実行委員会：東京大会開催内容と参加者の事前学習内容を決定
8月11日～ 9月 5日	事前学習レポートの作成(参加者)
9月 3日	ファシリテーター講習会：応募者21名の内17名が参加・応募作文と講習会の状況などを総合的に判断し、ファシリテーター9名を決定
9月23日～25日	世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京大会開催 最終日にメキシコ派遣候補者17名を選考
11月14日	第4回派遣委員会(委員会名を改称)：メキシコに向けた勉強会の進め方について決定
11月19日～20日	第1回メキシコ勉強会：メキシコでの発表テーマについて議論
平成18年 1月 6日～ 8日	第2回勉強会：メキシコでのプレゼン資料を作成、日本語によるプレゼン練習
1月16日	第5回派遣委員会：派遣者・発表テーマの決定
2月 4日～ 5日	第3回勉強会：英語でのプレゼン特訓
3月14日	第4回勉強会：直前特訓
3月16日～22日	第2回世界子ども水フォーラム(メキシコ)
5月	帰国報告会

(平成18年2月28日現在)



フォーラムを支えた人々

参加者の感想文のそこそこに見られるのは実行委員を始め、事務局、アドバイザー、ファシリテーター、記録係など、フォーラムを支えたスタッフへの感謝の言葉です。

特に、名前の通り、分科会などを「楽にしてくれた」ファシリテーターや記録係のスタッフは参加者と年齢が

近いこともあって、何かと頼りにされたようです。それぞれがニックネームで呼ばれているのが親しさの証しです。

これからも、参加者とスタッフは、ともに水問題に取り組む仲間としてネットワークの中で意見を交わしたり、アドバイスをしたりすることでしょう。

役割	名前	所属
実行委員長	岡島 成行	大妻女子大学 教授
実行委員(委員長)	嘉田 由紀子	京都精華大学 教授
実行委員	栢瀬 貴美子	(社)ガールスカウト日本連盟 副会長
実行委員	大野 重男	川に学ぶ体験活動協議会 代表理事
実行委員	藤 芳 素生	(社)日本河川協会 専務理事
実行委員	久保田 勝	国土交通省 河川局 河川環境課長(平成17年8月～)
実行委員	坪 香 伸	国土交通省 河川局 河川環境課長(～平成17年7月)
実行委員	山本 雅史	(財)河川環境管理財団 常務理事兼 子どもの水辺サポートセンター長
アドバイザー	小坂 育子	水と文化研究所 事務局長
アドバイザー	横田 妙子	NPO法人 日本水フォーラム チーフ
アドバイザー	浅井 重範	NPO法人 日本水フォーラム チーフ
アドバイザー	佐藤 寿延	国土交通省 河川局 河川計画課 企画専門官
アドバイザー	國友 優	国土交通省 河川局 河川計画課 課長補佐
アドバイザー	貴名 功二	国土交通省 土地水気環境政策課 課長補佐
アドバイザー	奥田 晃久	関東地方整備局 河川部 河川計画課 課長
アドバイザー	吉田 成人	関東地方整備局 河川部 河川計画課 建設専門官
アドバイザー	徳道 修二	関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長補佐
アドバイザー	石鉢 盛一朗	関東地方整備局 河川部 河川環境課 建設専門官
アドバイザー	津久井 俊彦	関東地方整備局 企画部 企画課 課長補佐
ファシリテーター長	三浦 初美	(社)日本環境教育フォーラム
ファシリテーター	小堀 進	NPO法人 直方川づくりの会
ファシリテーター	西林 ゆうか	東北大学
ファシリテーター	高田 拓朗	京都精華大学 大学院
ファシリテーター	寺内 雅晃	大阪府立大学 大学院
ファシリテーター	野口 倫子	関西大学大学院 文学研究科

役割	名前	所属
ファシリテーター	増永 文子	玉川大学 教育学部教育学科
ファシリテーター	大鳥 由香子	東京大学
ファシリテーター	宮崎 由美子	大阪府立大学 大学院
記録係	森 賢太	龍谷大学
記録係	西出 直哉	京都教育大学
記録係	三原 重央	玉川大学
記録係	池田 幸子	京都教育大学
記録係	増田 淑乃	同志社大学
記録係	植松 智子	滋賀大学
記録係	村松 まゆみ	NPO法人 里の楽校
記録係	長澤 英未	津田塾大学
記録(取材)	坂井 裕美子	(財)河川情報センター 広報事業部エディター室長
事務局	塚原 浩一	国土交通省 河川局 河川環境課 河川環境保全課長官
事務局	森本 輝	国土交通省 河川局 河川環境課 課長補佐
事務局	海津 義和	国土交通省 河川局 河川環境課 河川環境教育係長
事務局	後藤 順一	国土交通省 関東地方整備局 河川環境課 地域連携係長
事務局	牧野 国博	国土交通省 関東地方整備局 河川環境課 地域連携係 主任
事務局	入江 靖	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	鈴木 茂樹	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	矢野 克己	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	中山 尚	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	大西 伸和	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	花田 須磨子	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	菅原 一成	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	板橋 紀代子	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

(平成18年2月28日現在)